変化は滲出性炎症性変化で，炎症，吸收，出血の三者により血胸様相に差異を生ずるもので，細胞検査は血胸予後判定に資し得る。

42. 剝離腔吸収機能に於ける横隔膜運動の意義

河合外科　佐藤順泰

肺剝離術後に剝離腔内に潴溜する滲出液，血液等の運命に関する種々の因子の中横隔膜運動と吸收機能との関係を検索した。

1) 術前術側横隔膜運動は5.1～15.0mmのもの多く，運動良好なものは手術時に於ける肋膜肥厚軽度であり出血量も少く，又血胸の経過に於ても良好なものが多い。

術側横隔膜運動が対側に比し良好なものは30例中11例にみられ中5例は対側に肋膜炎の既往歴あるか，又は対側に既に手術を加えてあつた症例である。

2) 術後に於ける術側横隔膜運動は術前不良であつたものは術後一時運動上昇し，良好であつたものは反対に一時下降する傾向がみられる。

3) 横隔膜運動と吸收機能の関係については術後，日数，肋膜病変，血胸の型等の条件の同一な場合には横隔膜運動良好なものが良好な吸收機能を示すが，術後日数の経過と共に吸收機能良好となる傾向を示し，必ずしも横隔膜運動の推移とは平行して変化しない。

43. 肺剝皮術の治療成績，特に Peel の病理組織について

河合外科　清水健三

最近1年間に結核性膿胸10例，混合感染性膿胸2例，膨張不能肺2例，計14例に肺剝皮術施行し，うち11例（78%）には略々完全に腔の消失をみとめ治癒せしめ得た。結核性膿胸における肋膜の変化としては，肋膜内被細胞下無血管組織より結核性肉芽組織を生じ，次第に結締織化し膠原線維となり深層は段々と硝子化されてゆくが，表層は尙フィブリンで蔽われている。この層より Lamina elastica interna 迄を所謂 Peel として剝皮されると，出血も少なく手術は容易である。更に弾力線維の肥厚，迂曲，錯綜なく，肋膜下組織の比較的鬆粗で線維化のない症例では Peel の剝皮は容易であつた。剝皮した Peel を直ちにバリダーゼ溶液に入れ，37.0°C 24時間放置すると，膿膜のフィブリン，乾酪物質等の溶解を生じ，フォイルゲン染色で核は染まりにくゝなりフォイルゲン染色性物質の減少をきたしている。即ち，バリダーゼを術前より使用すると，膿膜の浄化のおこることが組織学的に確かめられた。

44. 肺結核外科と化学療法

河合外科　安西吉夫

肺結核外科療法は化学療法の併用により益々その効果をあげつゝあるが，外科療法施行前に之等薬剤の使用される頻度は次第に高くなりつゝあり，SM に就いても10γ以上の耐性を示すもの既に25%以上に達しているので，併用に際しては常に耐性の問題を考慮せねばならない。肺剝離術に於ける合併症の消失（SK, SD 及び SM を併用した36例の術後膿胸0%），胸成術に於ける適応の拡大，術後成績の向上，直達療法に於ける成績の向上（SM, INAH を併用した肺切除術26例の死亡率0%），縫縮術より部分切除縫縮術えの発展等すべて化学療法併用の賜であると云つても過言ではない。しかし吾々は常に結核菌の使用薬剤に対する耐性を考慮して併用法を適切に決定せねばならない。

45. 肺結核外科に於ける INAH の応用

河合外科　今関英六，篠崎幸三郎

我々は新に出現した INAH を術前術後の患者78例に使用しその効果副作用を検討し所見を得たので報告する。

INAH は喀痰中の結核菌の減少，臨床症状の改善等から手術前準備として用い有効であり，その使用期間は菌の減少時期，臨床症状の改善時期，耐性発現等から3-6週が適当である。血液像，肝機能その他副作用からみても外科療法の障碍となるものはない。又術後の併用により菌陰性率は高く合併症を抑え治療成績の向上に役立ち，局所的に用い気管支結核の治療，膿胸の発生予防に役立つ。本剤は SM 耐性菌にも有効であるので SM 使用の普及した今日，特に外科療法に欠く事の出来ない抗結核剤と思われる。

46. 肋膜内肺縫縮術施行に際し，抗生物質使用後の組織学的研究

河合外科　渡辺　巖

実験動物家兎を使用して肺膜内肺縫縮術を施行し手術創の化膿防止と縫縮部の治癒速進のため，抗生物質（ペニシリン及びオウレオマイシン）を使用して，手術後14日の縫縮部の組織学的変化を比較検討した。イ群は縫縮部並に肋膜腔内にペニシリン2